三好長慶生誕五〇〇周年記念プレイベント

飯盛城跡調査報告会

クローズアップ

飯盛城

2021

資料集

主　催：大東市　大東市立歴史民俗資料館　四條畷市教育委員会　四條畷市立歴史民俗資料館

題字：甲斐規予子

クローズアップ 飯盛城 2021

大東市と四條畷市は、平成 28 年度から三か年にわたり国史跡指定を目指し、飯盛城跡の総合調査を実施しました。総合調査では、飯盛城を築くための大土木工事（普請）の痕跡や建物跡（作事）を確認しています。今回の報告会では「築城」をテーマに、調査で確認された築城にかかわる遺構から巨大山城築城の背景を探ります。

◆◆プログラム◆◆

日時：令和3年7月25日（日） 午後1時～午後4時30分（受付午後0時30分）

会場：大東市立市民会館2階 キラリエホール

◇◇日程◇◇

13：00 ～ 13：05 開会挨拶 田川愛実（大東市産業・文化部生涯学習課 総括次長）

13：05 ～ 13：45「飯盛城の曲輪造成工事の試算」―Ⅷ郭（千畳敷郭）を中心として―
李 聖子（大東市産業・文化部生涯学習課）

13：45 ～ 14：25「特異な曲輪の建築物とその周辺」―Ⅴ郭（御体塚郭）を中心として―
村上 始（四條畷市教育委員会生涯学習推進課 上席主幹）

14：25 ～ 14：35 休憩

14：35 ～ 15：55「木沢・安見・三好、三代にわたる城づくり」 天野忠幸（天理大学准教授）

15：55 ～ 16：00 休憩

16：00 ～ 16：25 討論

コーディネーター 野島 稔（四條畷市立歴史民俗資料館）

パネラー 天野忠幸、村上 始、李 聖子

16：25 ～ 16：30 閉会挨拶 村上 始（四條畷市教育委員会生涯学習推進課 上席主幹）

16：30 終了

【飯盛城跡】

飯盛城跡は大阪府大東市・四條畷市にまたがる飯盛山の山頂に築かれた戦国時代末期の山城跡です。城域は東西約400m、南北約700mを測り西日本最大級の規模を誇ります。

享禄３年（1530）に木沢長政の居城として文献上はじめて登場し、永禄３年(1560)には天下人・三好長慶が居城とします。そして京都と五畿内を支配する三好政権の拠点・文化交流の場となりました。現在に残る城跡は飯盛城が城郭としての機能を失う永禄 12 年の頃の姿を留めていると考えられます。

【三好長慶生誕 500 周年記念プレイベント 関連行事】

◆◆大東市立歴史民俗資料館 スポット展示◆◆

飯盛城築城

―調査成果からみる城のつくりかた―

会 期：令和３年７月３日（土）～８月１日（日）（第１・３火曜日休館）
開館時間：9：30 ～ 19：30 入館料：無料
問 合 せ：大東市立歴史民俗資料館
大東市野崎３丁目６番１号 （電話）072-876-7011

◆◆四條畷市立歴史民俗資料館 第 36 回特別展◆◆

「天下の支配者」三好殿

―考古学からみた天下人三好長慶の軌跡と飯盛城跡―

会 期：令和３年 10 月５日（火）～ 12 月 12 日（日）（月曜日休館）
開館時間：9：30 ～ 17：00 入館料：無料
問 合 せ：四條畷市立歴史民俗資料館
四條畷市塚脇町３番７号 （電話）072-878-4558

飯盛城の曲輪造成工事の試算

―Ⅷ郭（千畳敷郭）を中心として―

大東市産業・文化部
李　聖子

はじめに

平成２８年から三か年にわたり、飯盛城跡の国史跡を目指した総合調査を実施いたしました。総合調査では、測量調査と分布調査によって遺構の分布と構造が明らかになり、山城に本格的な石垣を取り入れた山城であることが判明しました。また、大東市が実施した発掘調査によって、Ⅷ郭（千畳敷郭）及びⅨ郭（南丸）で曲輪を造成するために大規模な土木工事が行われていたことが明らかになりました。

今回の報告では、築城のために行われた土木工事に注目し、Ⅷ郭を中心に曲輪造成の土木工事からみえる城の特徴を探ります（註１）。

１　築城過程

①城の位置を決める（地選）

・交通の要衝

西麓 － 東高野街道（当時の首都京都と結ぶ）

北麓－清滝街道（奈良と結ぶ）

東高野街道の西側－深野池（大都市堺への水路）

②縄張りを決める（経始）

・縄張り＝城郭の平面プラン

・飯盛城跡は大きく北エリア（防御空間）と南エリア（居住空間）に分かれる

③曲輪の造成・防御施設を構築する土木工事（普請）

・南エリアⅧ郭・Ⅸ郭における発掘調査で曲輪を造成する大規模な盛土を確認

・石垣の構築―石垣８８の発見により、城の全域に石垣が取り入れられた可能性が高まった

④建築物・諸施設の建設工事（作事）

・Ⅷ郭で礎石の検出―礎石建物の存在を確認

・Ⅸ郭で柱穴、礎石を検出、壁土が出土―土壁づくりの礎石建物と櫓状の建物が存在する可能性

・Ⅴ郭で塀列建物跡を検出

２　曲輪と土塁の造成工事

①切土・盛土とは

・盛土―山の斜面など、斜めの地盤を水平にするために土を盛る工事（図１）

・切土―山の斜面など、斜めの地盤を水平にするために地盤を削る工事（図２）

②発掘調査で確認された切土と盛土

・岩盤を検出している部分―切土による平坦面の造成が行われた箇所。斜面を削ってでた廃土は盛土として利用したと考えられる。

・盛土―曲輪の端部や中央部分で確認。曲輪の端部は盛土が厚く盛られる傾向が見られる。

③盛土に使われた土の量（土量）から造成にかかる労働力を考える

・盛土量計算の方法

土層断面図から表土と旧地表面を除外して断面積を算出し、この断面積を平均して平均断面を算出。平均断面積に盛土された範囲の距離をかけて各調査トレンチの盛土量を計算。各トレンチの盛土量を足して発掘調査で確認した盛土量を算出（註２）。

表１　Ⅷ郭（千畳敷郭）・Ⅸ郭（南丸）トレンチ内検出盛土　試算表

施設名	曲輪面積（㎡）	トレンチ名	トレンチ幅 / 盛土（m）	断面名	断面積（㎡）	平均断面積（㎡）	盛土量（㎥）
曲輪 90	1150.0	16-5	2.0/7.6	①・②	① 1.2/ ② 1.2	1.2	9.12
		17-2	2.0/5.1	②・③	② 1.2/1.2	1.2	6.12
		16-3	2.0/5.8	③〜⑦	③ 1.2/ ④ 2.0/ ⑤ 4.2/ ⑥ 4.8/ ⑦ 2.6	2.96	5.92
			2.0/5.2	⑧・⑨	⑧ 0.4/ ⑨ 0.8	0.6	3.12
		16-2	2.0/2.0	⑦・⑧	⑦ 2.6/ ⑧ 0.4	1.5	3.0
		16-4	2.0/1.6	⑩〜⑫	⑩ 0.16/ ⑪ 0.8/ ⑫ 0.4	0.45	0.72
		16-1	2.0/4.0	⑬・⑭	⑬ 2.0/ ⑭ 2.4	2.2	8.8
		17-3	2.0/4.4	⑭〜⑯	⑭ 2.4/ ⑮ 2.0/ ⑯ 0.8	1.73	7.61
			2.0/2.4	⑯・⑰	⑯ 0.8/ ⑰ 0.4	0.6	1.2
			2.0/5.0	⑰〜㉒	⑰ 0.4/ ⑱ 2.0/ ⑲ 3.6/ ⑳ 3.2/ ㉑ 1.6/ ㉒ 1.2	2.0	10.0
			2.0/10.2	㉒〜㉗	㉒ 1.2/ ㉓ 0.8/ ㉔ 1.2/ ㉕ 0.2/ ㉖ 0.4/ ㉗ 0.4	0.7	7.14
		17-2	2.0/6.1	㉘〜㉚	㉘ 0.8/ ㉙ 1.6/ ㉚ 3.2	1.86	11.34
		17-12	3.5/7.6	㉛〜㉜	㉛ 4.9/ ㉜ 3.5/ ㉝ 0.7	3.03	23.02
		16-14	1.0/7.0	㉞・㉟	㉞ 0.8/ ㉟ 0.9	0.85	5.95
		16-15	2.0/3.8	㊱〜㊳	㊱ 0.8/ ㊲ 1.8/ ㊳ 3.0	1.86	7.06
		16-7	2.0/0.8	㊴・㊵	㊴ 0.2/ ㉝ 0.1	0.15	0.12
		16-8	2.0/3.0	㊶〜㊸	㊶ 2.4/ ㊷ 1.6/ ㊸ 0.4	1.46	4.38
曲輪 90　トレンチ内検出　盛土量合計							114.64㎥
曲輪 96	112.5	17-8	2.0/3.0	㊹・㊺	㊹ 2.0/ ㊺ 0.8	1.4	4.2
曲輪 96 トレンチ内検出　盛土量合計							4.2

・切土による曲輪・土塁の造成

→Ⅷ郭（千畳敷郭）では、広範囲で曲輪面が岩盤である事を確認

→Ⅸ郭（南丸）では曲輪・土塁の大半が岩盤であることを確認

３　おわりに

・居住空間であったⅧ郭（千畳敷郭）を造成するために、旧地形を活かしつつも、大規模な土木工事が実施されている。

・今回算出した土量の多くは推定値に基づいている。また、谷部に造成された曲輪や曲輪斜面に築かれた石垣の土木量と一体として検討しなければならない。

・城を築城するための土木量から見えるもの

→戦国時代の造成技術、築城過程の解明、城郭の機能や性格

【註】

註１　飯盛城跡は国史跡指定を目指して調査を実施したため、全面発掘はしていない。また、地形上の制約や遺構保護の観点から調査を断念した箇所もある。そのため、曲輪造成土量を正確に計算できるデータでないことをあらかじめお断りする。ただし、今後の保存・活用に向けた調査において必要なデータと考えるため、あえて試算を行っている。

註２　盛土層は一部推定で復原しており、各項目の数値については小数点第３位以下を切り捨てている。

【参考文献】

財団法人大阪文化財調査研究センター　2000『佐保栗栖山砦跡』―国際文化公園都市特定土地区画整理事業に伴う調査報告書―　㈶大阪府文化財調査研究センター調査報告書第 56 集

竹井英史　2018『戦国の城の一生　つくる・壊す・蘇る』 吉川弘文館

大東市教育委員会・四條畷市教育委員会　2020『飯盛城跡総合調査報告書』

兵庫県西脇市教育委員会　1992『播磨・水尾城跡の調査と研究』西脇市埋蔵文化財調査報告書３

兵庫県教育委員会　1993『内場山城跡』近畿自動車舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書（ＸＸＩ）　兵庫県文化財調査報告第 126 冊

兵庫県教育委員会　1994『岩井城跡』但馬空港建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　兵庫県文化財調査報告書第 130 集

山上雅弘　2021「山城調査における造成と土木量計算（その２）」『城郭研究と考古学　中井均先生退職記念論集』 中井均先生退職記念論集刊行会編

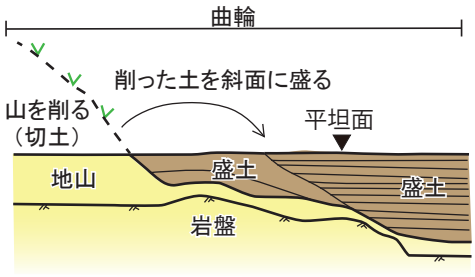


図１　曲輪を造成する切土・盛土の模式図

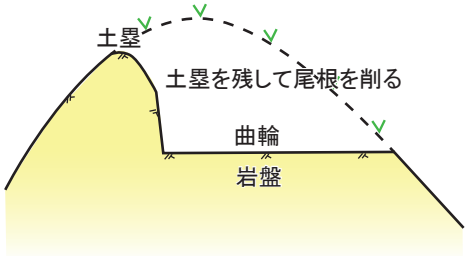


図２　土塁と曲輪を造成する切土の模式図

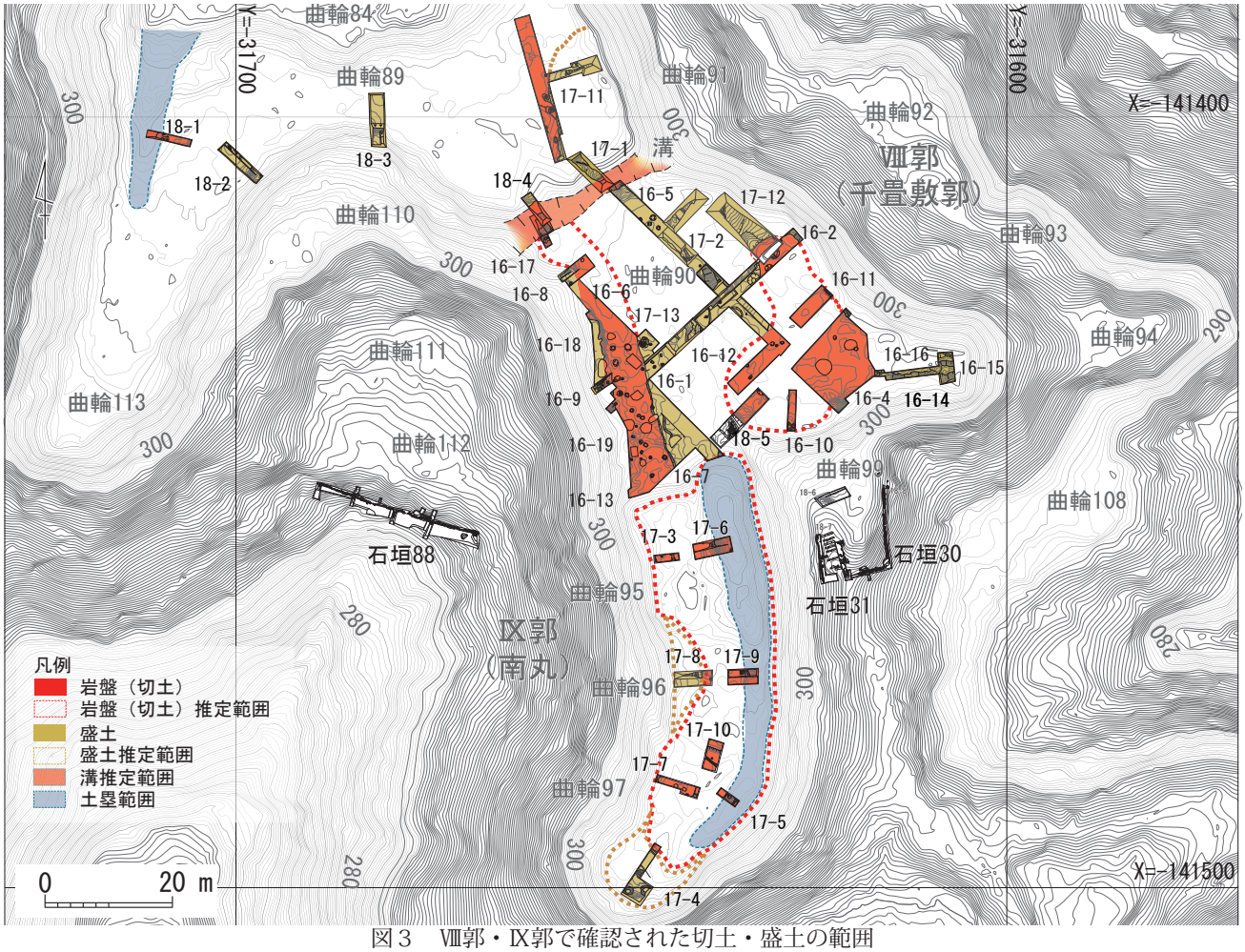


図３　Ⅷ郭・Ⅸ郭で確認された切土・盛土の範囲

写真３　曲輪 89　第 18-1 トレンチ（土塁）東から

写真４　曲輪 89　第 18-3 トレンチ　北から

写真５　曲輪 89　第 17-11 トレンチ　北から

写真６　曲輪 89　第 17-11 トレンチ（東西方向）

写真７　曲輪 89　第 18-4 トレンチ　溝１　南東から

写真８　曲輪 89　第 17-1 トレンチ　溝１　南西から

写真９　曲輪 90　第 17-2 トレンチ（東西方向）

写真 10　曲輪 90　第 16-3 トレンチ（南北方向）　西から

写真 11　曲輪 90　第 16-8 トレンチ　南東から

写真 12　曲輪 90　第 16-16 トレンチ　北から

写真 13　曲輪 90　第 17-12 トレンチ　南東から

写真 14　曲輪 90　第 16-13 トレンチ南東から

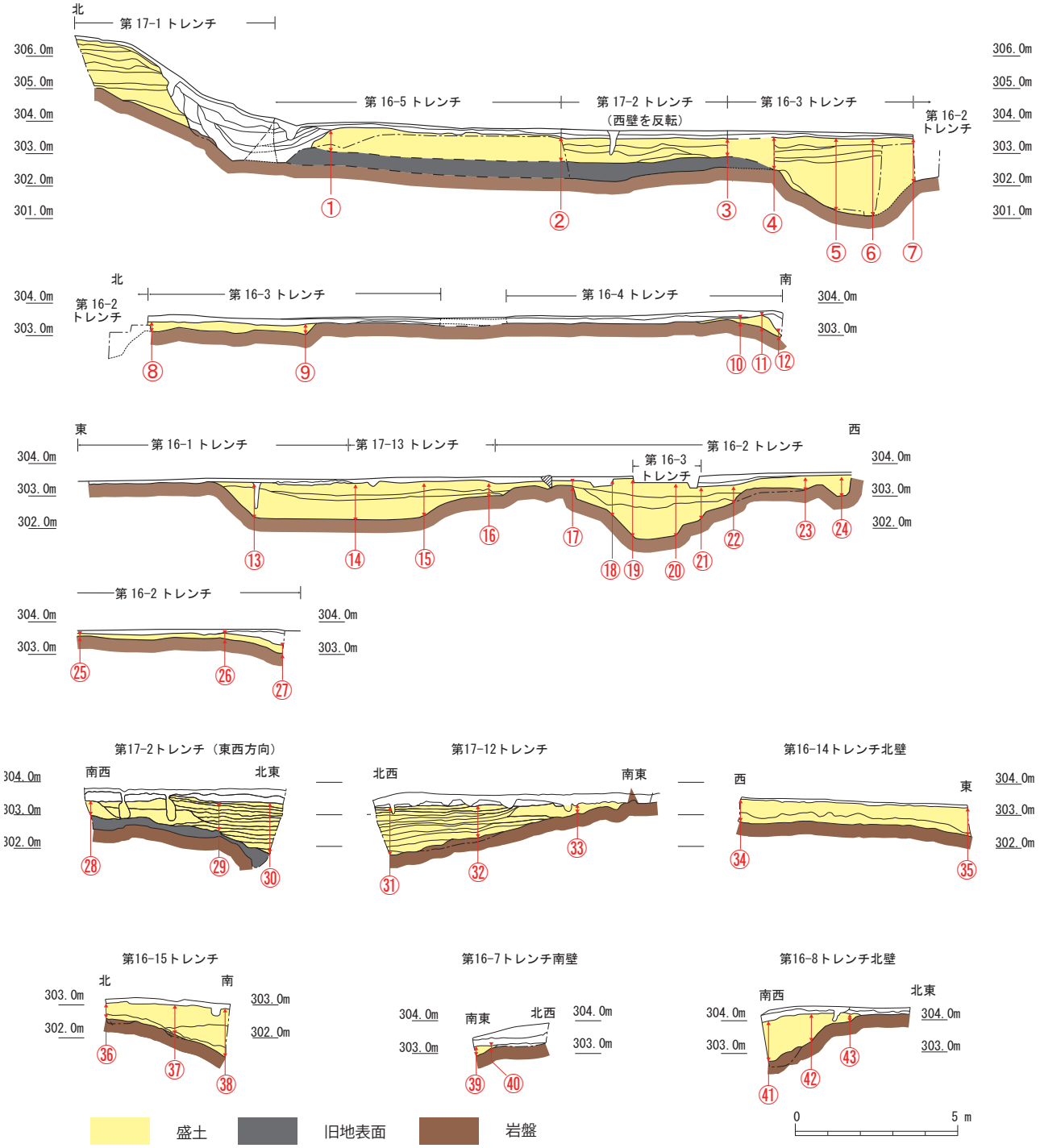


図 4　Ⅷ郭（千畳敷郭）　曲輪 89・曲輪 90　土層断面

写真 15　曲輪 95　第 17-3 トレンチ　東から

写真 16　曲輪 95　第 17-6 トレンチ（土塁）　西から

写真 17　曲輪 96　第 17-8 トレンチ　北東から

写真 18　曲輪 96　第 17-9 トレンチ（土塁）西から

写真 19　曲輪 97　17-7 トレンチ　東から

写真 20　曲輪 97　17-5 トレンチ（土塁）　南西から

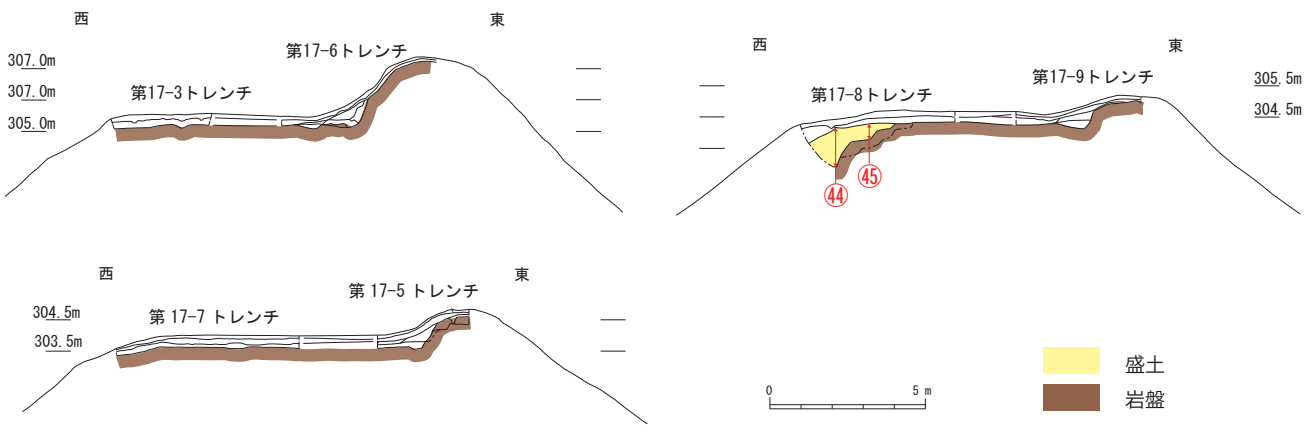


図 5　Ⅸ郭（南丸）　土層断面

特異な曲輪の建築物とその周辺
―Ⅴ郭(御体塚郭)を中心として―

四條畷市教育委員会
村上　始

飯盛城跡は、大阪府の北東部を南北に連なる生駒山系の北側に位置する標高約 314ｍの飯盛山山頂一帯に築かれた山城です。現在の行政区画では、城の北側は四條畷市大字南野、南側は大東市大字北條に属しています。

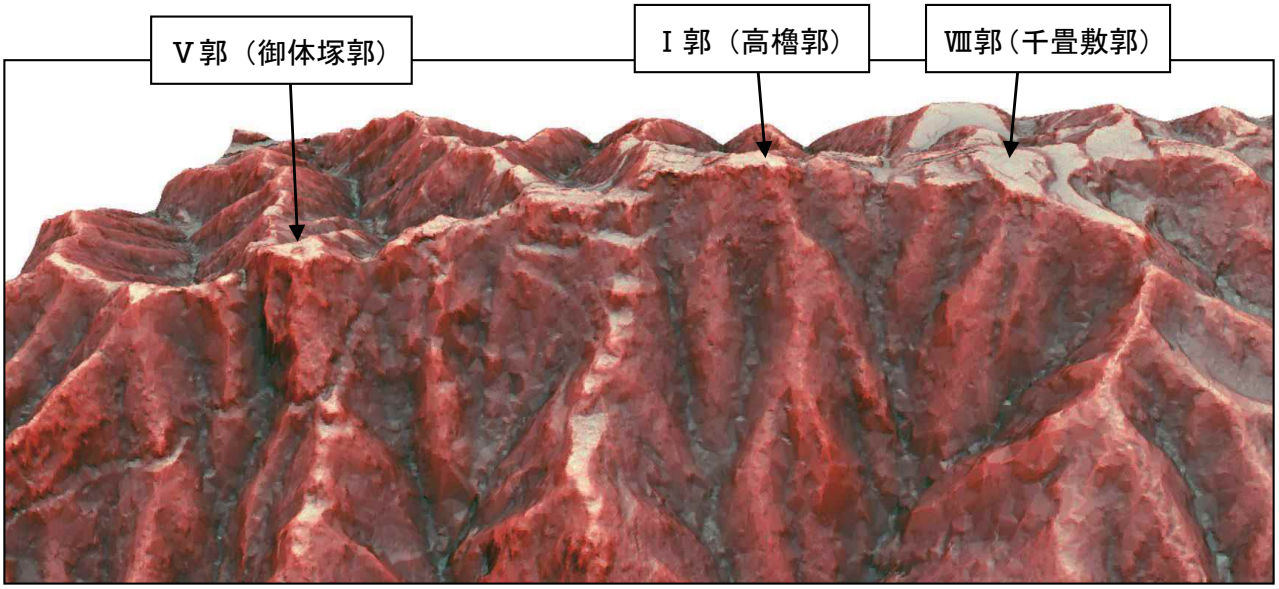
城域は、南北約 700ｍ・東西約 400ｍで、戦国時代末期の山城では西日本有数の規模を誇り、曲輪や石垣・堀切・竪堀・土塁など多くの遺構が残っています。

飯盛城について中井均氏は『飯盛城跡総合調査報告書』のなかで、「戦国時代の山城としては比較的高所に選地(せんち)されたと言ってもよいだろう。それは守護や戦国大名の居城と同様に支配する地域を俯瞰(ふかん)できる地であるとともに、支配地から仰ぎ見られる地であったことを物語っている。」と述べられています。

1. Ⅴ郭(御体塚郭)について

（１）御体塚郭（曲輪 59）の位置

飯盛城内のやや北寄りの標高約 287ｍのところに位置しています。



航空レーザー測量による三次元画像（西から）
四條畷市教育委員会、大東市所蔵

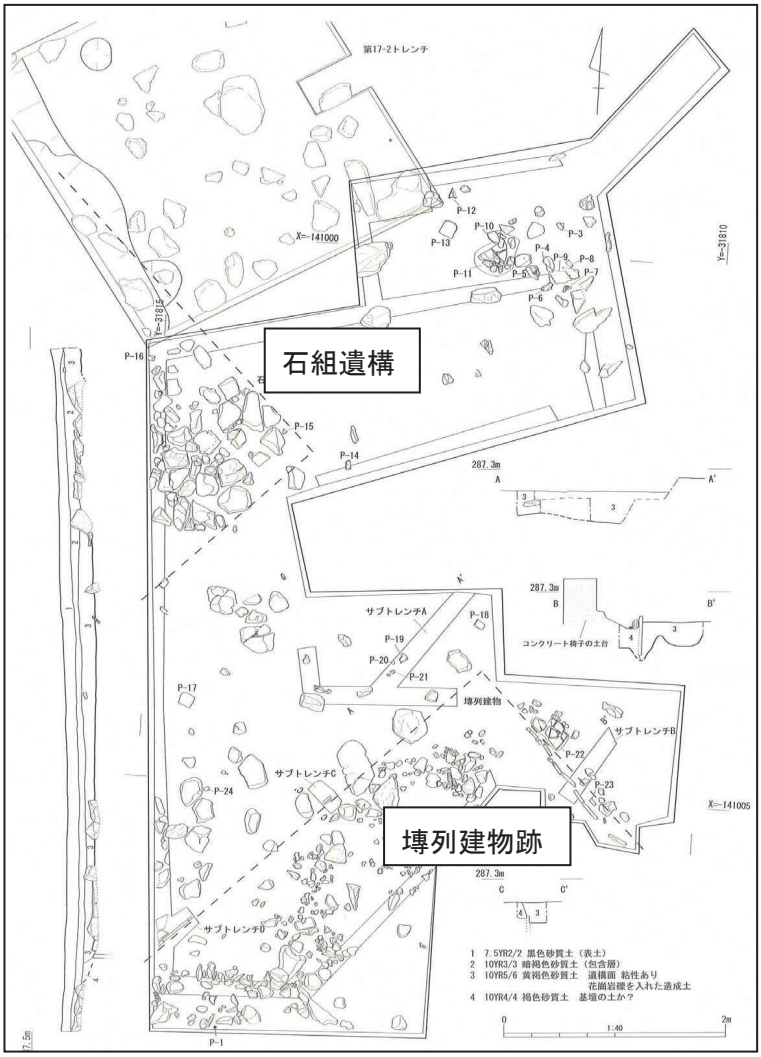
この曲輪の平面形態は菱形状をしており、中央やや西寄りには高さ約 1.5ｍの花崗岩の岩盤が露出（露岩）しています。本来、曲輪はその機能から平坦な土地として造成しますが、この曲輪は、意図的に旧地形のまま岩盤を残した可能性があります。

またこの曲輪は、三好長慶が永禄７（1564）年に没した際、その死を隠すために仮埋葬された場所と伝えられてきたことから『御体塚』と呼ばれてきました。

この曲輪の北東の斜面には、石垣 18 が築かれています。その石垣の調査の際に平瓦が出土したことから、その上部にあたるこの曲輪に建物があった可能性が考えられたため、平成 29 年と平成 30 年にこの曲輪で発掘調査を行いました。

その結果、曲輪の南東部において塼列建物（塼貼建物）と石組遺構を確認し、瓦や土師器皿、土師器台付灯明皿、鉄釘、銅銭、輸入磁器、壁土など多くの遺物が出土しました。

塼列建物は、建物の土壁の裾に塼（瓦に似た四角形の板状の焼き物）を貼り付ける建物で、その規模を復元すると最大約４×６ｍとなります。また、塼列建物の北側で検出した石組遺構は、礎石列建物や礫敷建物と呼ばれる石組みの基礎構造をもつ建物の一部である可能性が考えられます。



塼列出土状況

石組遺構出土状況

・塀列建物が確認された主な城跡

芥川山城（大阪府高槻市）、高屋城（大阪府羽曳野市）、若江城（大阪府東大阪市）、置塩城（兵庫県姫路市）、感状山城（兵庫県相生市）、端谷城（兵庫県神戸市）など

・塀列建物の機能

堺環濠都市などで確認されているものは、土蔵として使われたと考えられています。

置塩城は、その出土位置から櫓（やぐら）を想定されています。

（２）城の位置を決める（地選）

①地の利：大和川水系、深野池、新開池⇒水運

東高野街道、清滝街道、古堤街道⇒陸運

②信仰の山と城郭

中西裕樹氏は『飯盛城跡総合調査報告書』のなかで、中澤克昭氏や大沼芳幸氏などの研究から「城郭は、巨石や磐座が所在する信仰の地に所在することがある。その理由は、城郭主体による信仰の反映（心性）、地域社会の崇拝対象と一体化した権力の誇示などが想定されている。」と紹介されています。

また、飯盛山東麓の谷に流れる権現川と雨ごい伝承がある権現の滝や龍尾寺などが点在しており、龍は水源や水分の神であることから、古くから飯盛山は地域の水源としての信仰を受けた場所と考えられること。また御体塚郭は、曲輪内に岩盤が露出する城内でも異質な空間で、長慶の仮埋葬地との言い伝えがあり、その周辺は城内でも石垣が多くみられるエリアで、祭祀に係る遺物が出土しているといったことから、水源への信仰の景観を保ち、それを石垣が引き立てていたのかもしれないと考察され、三好氏の拠点城郭で、同様の信仰地との重複が想定できる例として、芥川山城と滝山城を紹介されています。

【信仰の地と関連が想定される山城】

観音寺城（滋賀県近江市）、小谷城（滋賀県長浜市）、小牧山城（愛知県小牧市）、岐阜城（岐阜県岐阜市）、安土城（滋賀県近江八幡市）など

（３）御体塚郭の機能

・御体塚郭から出土した土師器台付灯明皿

現在のところ、他の遺跡から同時期の遺物の出土例が見当たりません。

春日大社（奈良市）では、古くから「ごんぱい」と呼ばれる類似した土器が使われています。⇒神社の祭祀など宗教的な特異な用途が想定される。

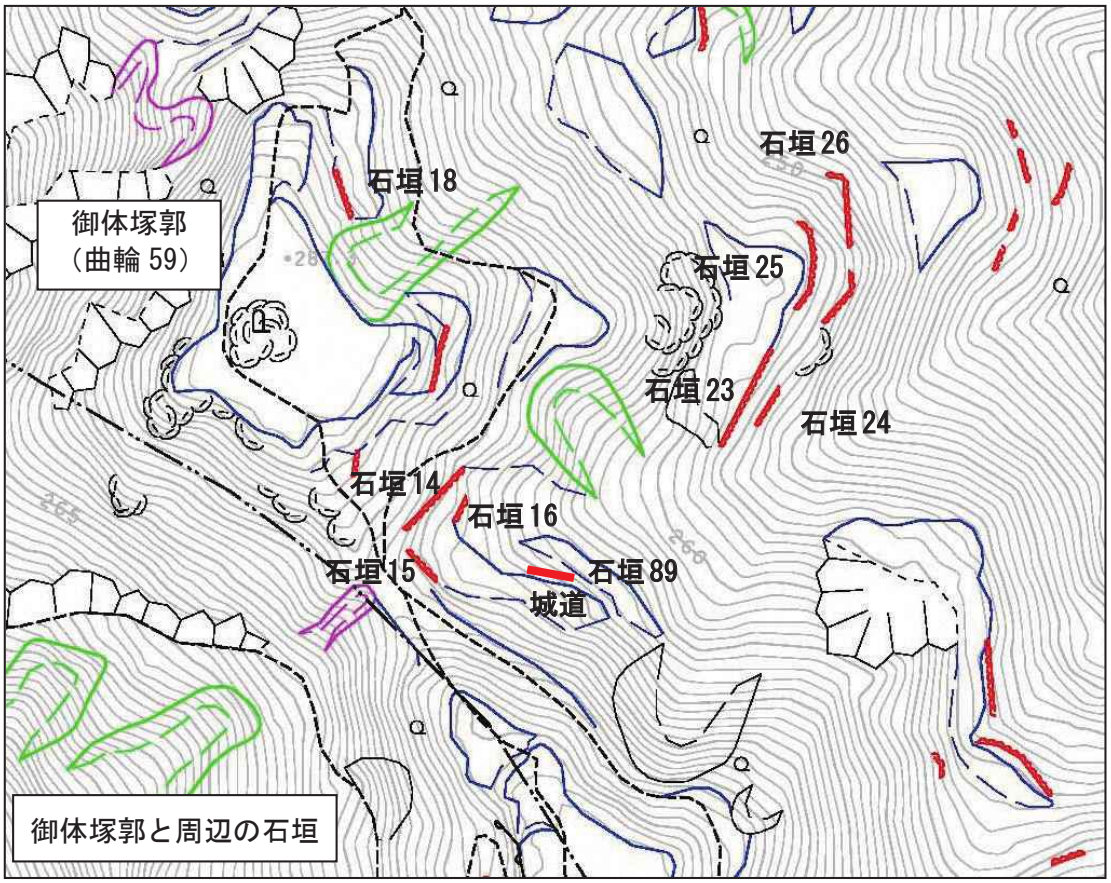
・新羅善神堂（新羅社）の勧請

天野忠幸氏が『飯盛城跡総合調査報告書』のなかで、「永禄 3 年（1560）11 月に飯盛城へ入城直後に唯一神道を受け継ぐ公家の吉田兼右に、祖先である源義光が社頭で元服した由緒をもつ園城寺の新羅善神堂を勧請するための作法と費用を尋ねており、この段階で自らの居城とする構想をもっていたことがわかる。」と紹介されています。⇒実際に勧請されたかは不明

⇒これらのことが、三好長慶を仮埋葬したとの言い伝えを生んだのか。

2. 御体塚郭東側に集中している石垣

飯盛城跡の石垣は、花崗岩の自然石もしくは粗割の石を用いて、垂直近くの勾配で積み上げています。



石垣 14（右）、石垣 16（左）
石垣 15（奥）

石垣 18

石垣 23（上）、石垣 24（下）

【参考文献】

大東市教育委員会・四條畷市教育委員会　編『飯盛城跡総合調査報告書』2020

中世学研究所　編『城と聖地』高志書院、2020

小野正敏・五味文彦・萩原三雄　編『中世人のたからもの』高志書院、2011

令和３年度飯盛城跡調査報告会「クローズアップ飯盛城 2021」　2021 年 7 月 25 日

木沢・安見・三好、三代にわたる城づくり

天理大学　天野忠幸

はじめに

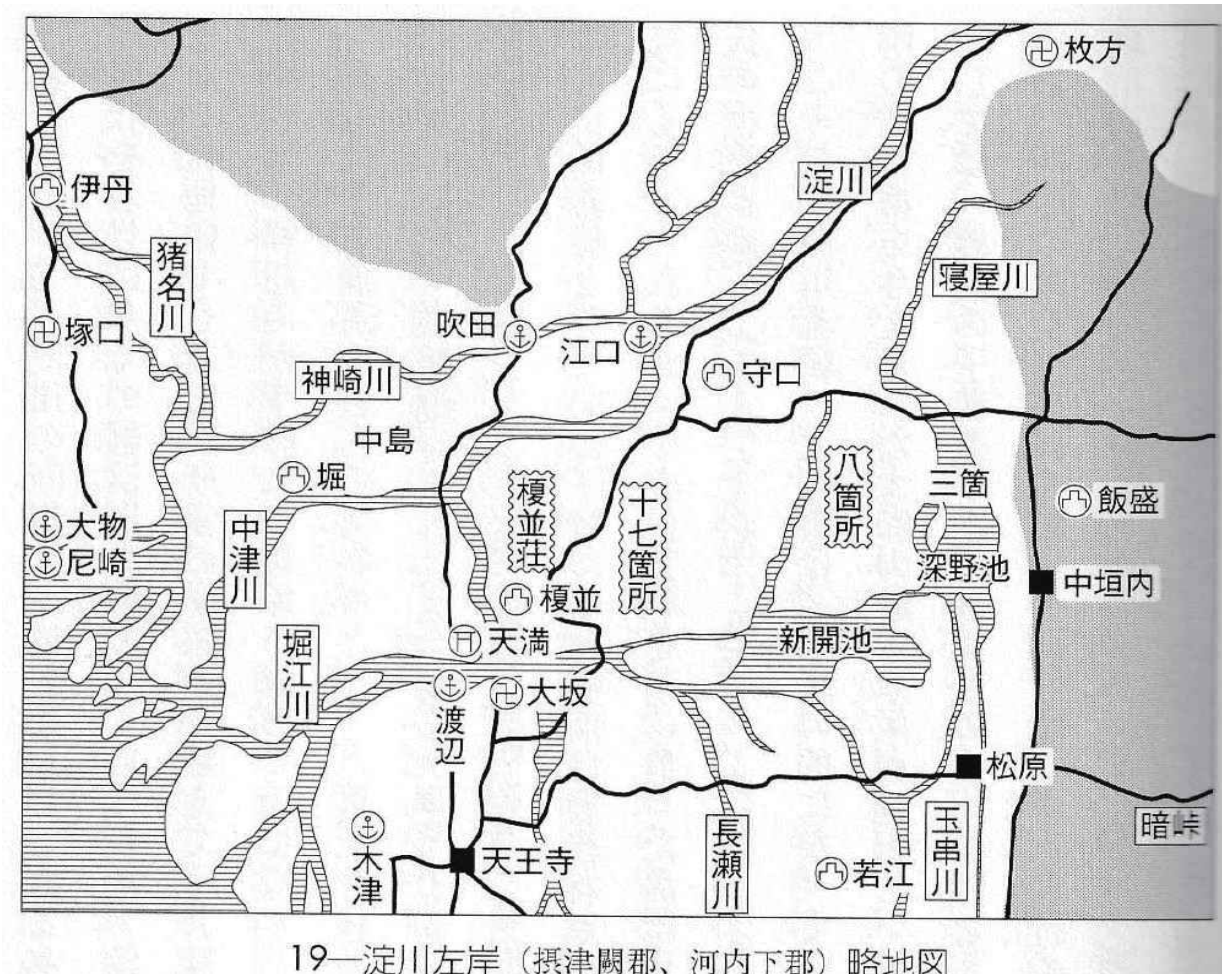
○飯盛城の周辺

淀川左岸の地政学

京都の幕府、摂津の細川氏、河内の畠山氏、大坂の本願寺の権益が錯綜

淀川水系と大和川水系、そして東高野街道

大軍の展開が難しい、天然の堀、しかし交通の要所



19―淀川左岸（摂津闕郡、河内下郡）略地図

天野忠幸『室町幕府分裂と畿内近国の胎動』（吉川弘文館、2020 年）93 ページ

○飯盛城の出現

この混沌とした地域を治めようとする勢力の政治拠点が成立

東（奈良）・西（兵庫）・南（堺）・北（京都）への発展も視野に

平城（その町だけのシンボル）と山城（地域全体を睥睨、象徴）

１、木沢長政

○河内畠山氏

政長（東軍）と義就（西軍）の家督争い、応仁の乱後に反幕府の義就が河内を占領

河内南部の誉田城や高屋城が一国の中心

○木沢長政の権勢

義就流畠山氏の奉行人、畠山義堯―細川高国（義堯の敵）―細川晴元（義堯の味方）

京都での評判は「武勇之誉」「美麗」合戦には弱い

享禄３年（1530）末頃に京都で流行した狂歌　…飯盛城の登場

「近江までとらんといつる木沢(長政)殿　いひもり山(飯盛)を人にくはるな」

「少弼(六角定頼)のなかに一つふ一つふの　いひもり武士はほさるへら也」

細川晴元陣営の内紛

享禄４年（1531）～５年（1532）畠山義堯・三好家長（元長の家臣）の攻撃、「難儀」

細川晴元や一向一揆の「後巻」で撃退、長政「当時権門也」

一向一揆と細川晴元の戦い

天文２年（1533）信貴山に陣取る長政が晴元に京都か飯盛城かに向かうよう勧める

同年、畠山在氏（義堯の息子）を飯盛城に迎える

天文５年（1536）朝護孫子寺の背後に信貴山城を築城し居城とする、大和守護

後に二上山城（岩屋、鹿谷寺跡、祈雨）や笠置山城（磐座、笠置寺）を築城

⇔長政の山城の特徴、聖性と信仰、巨石と寺院、飯盛城以前は？

同年に本願寺との完全な和睦が成立、河内復興と寺内町の形成

本願寺勢力との協調関係、堤防工事に長ける

○畠山在氏

天文６年（1537）より守護として活動、「飯盛御屋形様」

→公的な城郭として格式、屋形号は21家に固定

長政の父の浮泛、長弟の中務大輔、次弟の又四郎を配置

『美濃加納永井家史料』「河内国飯盛旧城絵図」に「二ノ丸」「ほうづきばた曲輪」「三ヶ殿曲輪」「本丸」「水の手」「高」「馬場」「カラホリ細シ」「左馬允曲輪」

→整備の時期、又四郎が左馬允に改称（天文８年８月から９年３月）

木沢長政の乱

天文11年（1542）３月、太平寺で政長流畠山氏の遊佐長教と戦い討死

在氏は左馬允の赦免を求め飯盛城に籠城、細川晴元や十市・筒井氏を撃退

天文12年（1543）正月に開城　…堅固さ

２、安見宗房

○安見氏の出自

河内国交野郡私部郷、枚方寺内町に宿所、後には私部城（交野城）築城

細川晴元より大和国添下郡鷹山荘の鷹山弘頼と共に「城州上三郡守護代」

遊佐長教より「下ノ郡（河内北部）代」

→木沢長政の地盤を継承

○遊佐長教死後の騒動で頭角

天文 18 年（1549）長教が養女を三好長慶に嫁がせ同盟

天文 20 年（1551）長教暗殺、上郡代で高屋城の萱振賢継と対立

天文 21 年（1552）宗房が賢継を飯盛城で謀殺

『興福寺大般若経（良尊一筆経）奥書』

「仍安見方へ萱振ヲ請用スヘシトテ、飯盛ニスキ（数奇）ノ座敷ナト立事外ニ用意シ、則去十日ニ令請用、一駄引出者以下奔走シ芸能ナトサセ、種々様々ニ賞翫不斜云々、酒宴モ漸々ヲワリケル夜半ハカリニ打手ヲムケ畢、兼而ヨリ下知シ置ケル事ナレハ、手マチヽヽニマカセ、ヲシヨセヽヽ打死（コロ）シヲキ、大将分ノ物（者）十人ハカリ打コロシ、ソノマヽ高屋へ打入、萱振カ宿所へ取懸、女子トモ悉サシコロシ了」

『松屋名物集』『清玩名物記』

文琳の「玉垣」（筒井氏）、水覆の「合子」（三好宗三）、「白天目」（中坊氏）

牧谿の「即庵日飽」（奈良の安清）

→畠山氏の中でも突出した文化人、風流の座敷の整備

天文 22 年（1553）鷹山弘頼が高屋城で謀殺

弘治 3 年（1557）畠山高政と確執、大和の筒井順慶が飯盛城に亡命

永禄元年（1558）宗房が順慶を後見して大和へ出兵

この頃、狭山池の改修に着手

「狭山池西樋板銘」片桐且元の奉行が作成、100 年以前に宗房が着手も成就せず

「狭山池間数書并由緒覚」永禄年中のこと

→土木工事に秀でた存在

３、三好長慶

○足利将軍家を擁立せず、室町幕府に拠らない政権を樹立

兄貴分の遊佐長教や政長流の畠山高政と連携

長慶・高政と将軍義輝・安見宗房の対立、高政が堺に出奔

○三好氏の河内侵攻

永禄 2 年（1559）長慶が河内と大和を攻め、高政を復帰させる

『法隆寺文書』12/3 松永久秀から法隆寺へ

「順政（筒井）山之城衆・飯盛衆令出入、以外俳掴之由風聞ニ付而、先度も申候ツ、弥御制禁簡（肝）要候」　…飯盛城の安見勢は健在

永禄 3 年（1560）長慶が御相伴衆に、高政と対立、高政と宗房が和解、長慶が激怒

4 月「飯盛下」を「打廻」、麦を刈り取り、麓北市場を放火

7 月～8 月、出口・中振・堀溝で合戦　…野崎が燃えていない、深野池に守られたか

10/24 安見宗房が池田長正の仲裁で開城して堺に退去、「天下弥目出候」

11/13 長慶が入城

11/19 松永久秀が清原枝賢を通じて園城寺の新羅善神堂を勧請する作法と費用を問い合わせ

→三好氏の祖先の新羅三郎源義光が元服した由緒、堺の南宗寺に並ぶ聖地・宗廟

永禄 4 年（1561）正月、松永久秀・鳥養貞長・松山重治が在城、5 月に飯盛千句

→同年より久秀は奈良に多聞山城を築城

東寺より畳を徴発、絵師狩野氏や金工の体阿弥を動員、高矢倉や主殿を造営

長慶は久秀を後見する関係、築城技術を持つ

同年に渡辺津の渡辺氏を登用、伊勢貞助らに野崎で領地を付与、野崎惣中に指出検地

→三箇氏も含め水運重視、家臣の領地を飯盛周辺に配置か

永禄 5 年（1562）3 月～5 月、長慶が籠城「堅固」「城内難儀」、教興寺の戦い

同年 12 月に道明寺法楽百韻、翌年 11 月に谷宗養、里村紹巴、辻玄哉、安宅冬康と連歌

永禄 7 年（1564）ロレンソ了斎やガスパル・ヴィレラが訪問、73 名が改宗

→三箇頼照サンチョ（河内）・池田教正シメオン（摂津）・三木半太夫（阿波）、

200 人のキリシタンの貴人、家族と共に山上に居住

「フロイス書簡」1567/7/8

「サンチョは同所に近い川沿いの堀に囲まれた小島に赴いて、我ら一同に見せたが、そこはかつて彼が城内(飯盛城)の高い所に住居を構える以前に家を有していた所であり、もし主（なるデウス）が彼に寿命を授け、またこの度の戦さが終われば、彼は同所にもっと大きな教会を建て、二、三年後には俸禄と家を子に譲り、ただ己れの救いに専念すべく同地に篭る決心をしている。」

『美濃加納永井家史料』「河内国飯盛旧城絵図」の「三ヶ殿曲輪」に対応か

同年 7/4 長慶死去

『柳生文書』6/23 石成友通から松永久秀へ

曲直瀬道三の治療､秘匿のため薬師衆に起請文を書かせよ､御小姓衆に殉死の動き､

高屋城の三好康長には口頭で

おわりに

○山城と畿内の寺院の技術

芥川城と醍醐寺からの移築、滝山城と妙蔵寺、多聞山城と眉間寺

○飯盛城

河内北部（+摂津南部）、山城南部、大和北西部には有力国人（国衆）がいない

城主が巨大化、彼らの紐帯となる

参考文献

天野忠幸『室町幕府分裂と畿内近国の胎動』（吉川弘文館、2020 年）

大東市教育委員会・四條畷市教育委員会編『飯盛城跡総合調査報告書』（2020 年）

中世学研究会編『城と聖地』（高志書院、2020 年）

村井祐樹「三好にまつわる諸々事」（『東京大学史料編纂所研究紀要』31、2021 年）

写真１　河内国飯盛旧城絵図（東京大学史料編纂所所蔵「美濃加納永井家史料」）

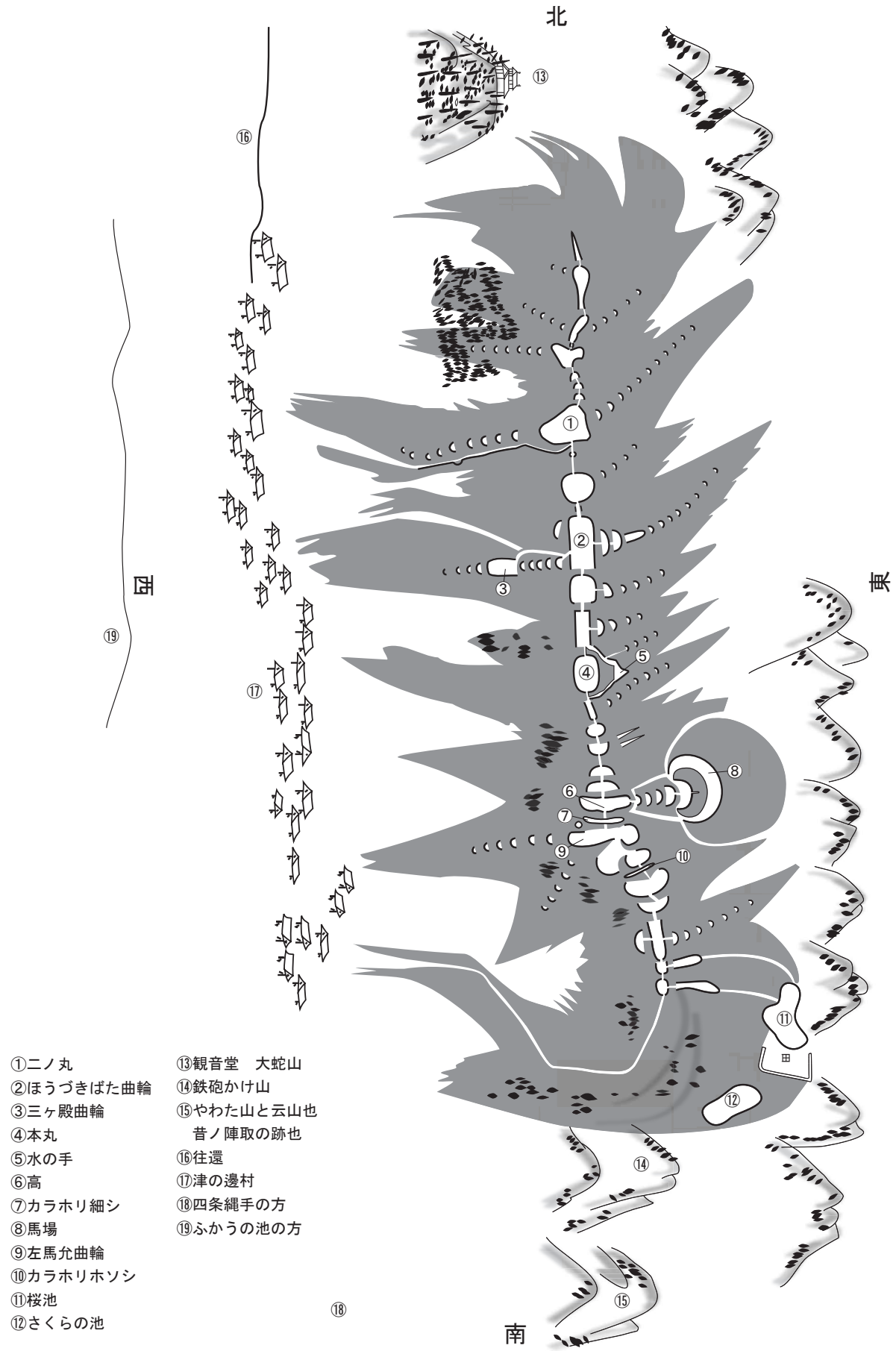
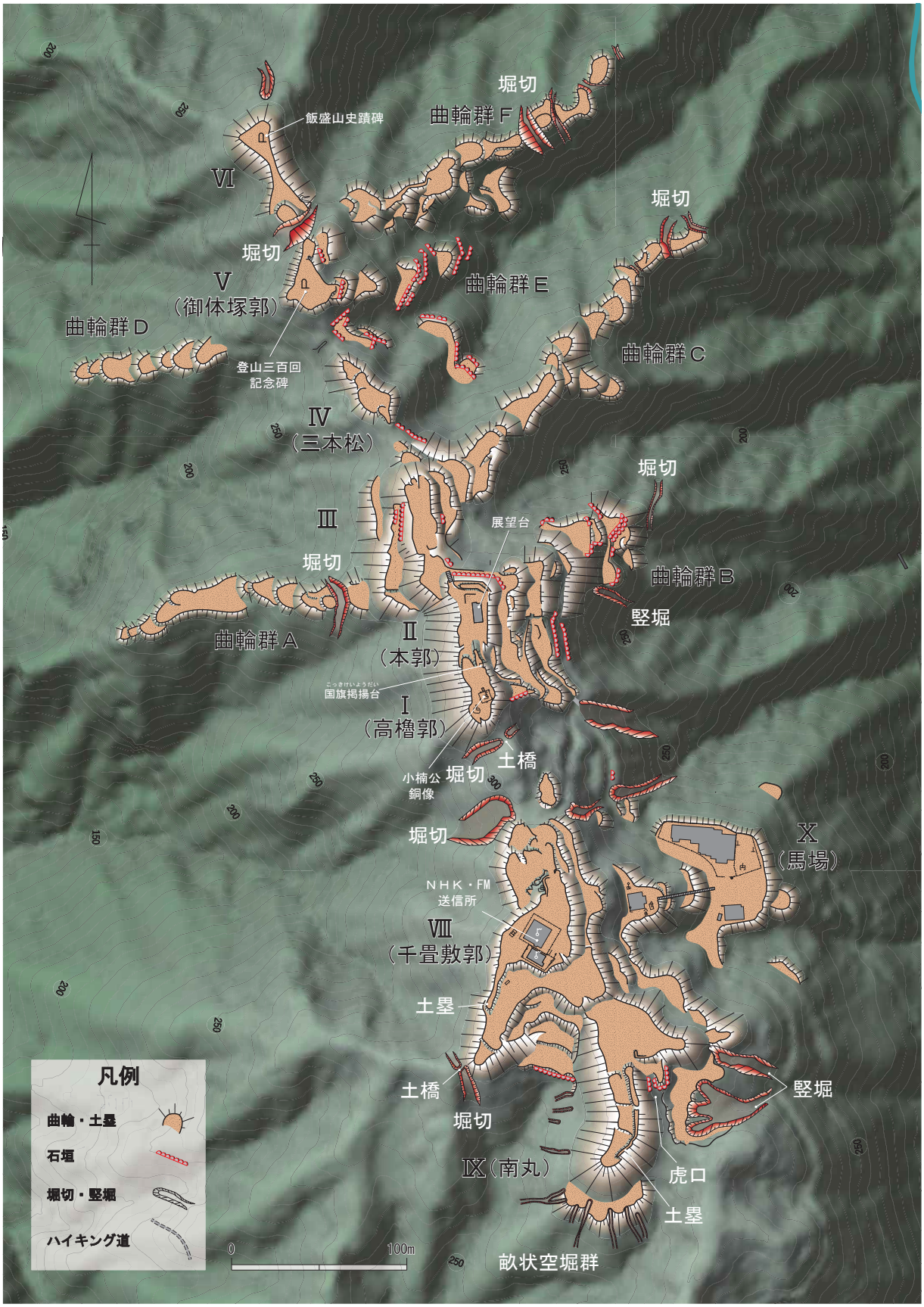


図１　河内国飯盛旧城絵図 (トレース) （大東市教育委員会・四條畷市教育委員会 2020 より）

飯盛城跡　遺構現況図



城郭と石垣の用語

城 郭　【曲輪（くるわ）】山を切り盛りしてつくった平坦面　【土塁（どるい）】土を盛り上げてつくった防御壁　【切岸（きりぎし）】人工的に作った急斜面
【堀切（ほりきり）】尾根を遮断する空堀　【竪堀（たてぼり）】斜面に沿って掘られた空堀　【虎口（こぐち）】城の出入り口
【土橋（どばし）】堀切に設けられた土の橋　【畝状空堀群（うねじょうからぼりぐん）】竪堀とそれに沿う土塁を交互に3条以上並べたもの

石 垣　【根石（ねいし）】石垣の基礎になる最下段の石材　【築石（つきいし）】石垣の立面を構成する石材　【栗石（ぐりいし）】築石の背面に充填された排水用の石材
【隅角部（ぐうかくぶ）】石垣の塁線を曲げて作られた角。出角と入角で構成される　【出角（ですみ）】石垣の塁線を外側に曲げて造られた凸部分の角
【入角（いりずみ）】石垣の塁線を内側に曲げて作られた、凹部分の角

飯盛城跡　国史跡へ！！

大東市と四條畷市は平成 28 年度より共同で「飯盛城跡」の調査を実施してきました。調査の結果、城郭史上の画期に位置づけられる貴重な遺跡であることが判明しました。このことから、令和２年度に国に対して「飯盛城跡」の国史跡指定について意見具申を行いました。

これを受けて、令和３年６月１８日（金）に開催された国の文化審議会において「戦国時代の政治・軍事を知るうえで貴重」であるとして「飯盛城跡」を国史跡に指定するよう文部科学大臣に答申されました。

今後は官報告示を経て正式に国史跡指定となります。指定されると大東市・四條畷市ともに初の国史跡となります。

1	指定の種別	史跡
2	指定等の対象の名称	飯盛城跡（いいもりじょうあと）
3	所在地	大東市大字北條、四條畷市大字南野
4	指定対象面積	633,394.20 ㎡ （大東市域　514,009.30 ㎡　四條畷市域 119,384.90 ㎡）

飯盛城関連年表

１５３０（享禄３）頃	細川晴元被官・木沢長政、飯盛城を居城とする。
1531・32（享禄4・5）	畠山義宣、木沢長政の飯盛城を攻撃。
１５３６（天文５）	木沢長政、飯盛城から信貴山城（奈良県平群町）にうつる。
１５３７（天文６）	木沢長政、畠山在氏を河内守護に擁立。飯盛城は守護所となる。
１５４２（天文１１）	木沢長政、遊佐・三好・本願寺と戦い、太平寺（柏原市）で敗死。 ついで両軍が飯盛山麓で衝突。
１５４３（天文１２）	木沢の残党、飯盛城から大和方面に退く。
１５５１（天文２０）	安見宗房、河内守護代となり飯盛城に入城。
１５５２（天文２１）	安見宗房、飯盛城内で酒宴にことよせて萱振賢継を誅殺。
１５５９（永禄２）	安見宗房、高屋城に進出するが、長慶に攻められ飯盛城に退却。
１５６０（永禄３）	三好長慶、高屋城（羽曳野市）の畠山高政を破り、安見宗房 を追放して河内を占領。芥川山城（高槻市）から飯盛城に入る。
１５６１（永禄４）	三好長慶、飯盛城で連歌会（飯盛千句）を催す。
１５６２（永禄５）	三好長慶、飯盛城で安見宗房や根来寺衆を迎え撃つ。
１５６４（永禄７）	宣教師ガスパル・ヴィレラや日本人修道士ロレンソ了斎、飯盛城で 三好長慶の家臣７３名を洗礼。 三好長慶、飯盛城で弟の安宅冬康を殺害。 三好長慶、飯盛城で死去。養子の義継が家督を継ぐ。
１５６５（永禄８）	宣教師ルイス・フロイス、飯盛城を来訪。 三好義継、飯盛城から高屋城にうつる。
１５６７（永禄１０）	飯盛城、三好義継に対抗する三好三人衆の手にわたる。
１５６８（永禄１１）	三好義継、将軍足利義昭から飯盛城を安堵される。
１５６９（永禄１２）	三好義継、飯盛城から若江城（東大阪市）にうつり、飯盛城は城郭 としての機能を失う。

令和３年７月 25 日開催　飯盛城跡調査報告会「クローズアップ飯盛城 2021」 資料集
発行：大東市産業・文化部生涯学習課（編集）　〒 574-0076　大阪府大東市曙町 4 番 6 号　Tel 072-870-9105/Fax 072-870-9687
四條畷市教育委員会教育部生涯学習推進課　〒 575-8501　大阪府四條畷市中野本町 1 番 1 号　Tel 072-877-2121/Fax 072-877-8300